

章	No	質問事項	外部評価委員	回答	根拠となる資料
1	1	自利利他の位置づけが印刷物で表現が異なる	石川弘道委員	須藤学長により、「自利利他」＝「健大精神」として統一する	特になし（今後の印刷物・公表資料を統一）
1	2	健康福祉学部の人材養成の目的が学部独自の目的を示しているとは言い難い。	石川弘道委員	今後の課題として検討	
1	3	自利利他の精神が学部の目的に反映されていない。	石川弘道委員	今後の課題として検討	
1	4	学部・研究科での検証について、根拠資料がない。	石川弘道委員	根拠資料（H26年度学部教授会議事録等）を準備する	平成26年度学部教授会要項・議事録等
3	1	求める教員像や教員組織に関する方針が明文化されているなら公表すべき。無いなら早急な対応を望む。	石川弘道委員	大学が求める教員像や教員組織について、これまで明文化していなかったため、改めて方針を策定した。	高崎健康福祉大学求める教員像および組織編制方針
3	2	報告書内記述において、助手が授業担当をしている旨の記述があるが、助教以上の役職でないとは授業を担当できないはずだが、何か特別な事情はあるのか	石川弘道委員	表現が誤っており、担当助手は授業を担当するわけではないため、報告書の記述を修正	特になし
3	3	教員評価の本人へのフィードバックは早急に対応すべきである。	石川弘道委員	本学の基準によればフィードバックを行うことになっており、基準に沿った実施となっていない。実施主体に早急に改善をお願いする。	高崎健康福祉大学における教員評価実施基準
3	4	報告書に年齢構成データを記載した根拠資料を明示してほしい	石川弘道委員	今回外部評価委員向けの資料に提供しておらず、大学基準協会への提出資料としては準備しているため、特別記述の変更などは予定していない。石川委員へは最終報告にて提示したい。	特になし
3	5	報告書の文章中に同じ規程であると思われるが、名称が異なる箇所が散見されたので確認願いたい。	石川弘道委員	正しい名称に修正	特になし
3	6	薬学部の教授の数が報告されているデータ表と履修ガイドで異なる点はいつの時点から変更となったのかを明記したほうがよい。	石川弘道委員	履修ガイドの作成締切に町田教授の異動辞令が間に合わず、根拠資料となる履修ガイド・学生生活ハンドブックでは旧所属の医療情報学科に記載されている。この点については最終確認の上、記述の必要があるか、検討したい。	特になし
3	7	ST比率の経年分析も重要な指標となる。教員採用にかんしては、公募による人材募集、年齢構成のバランス是正、外国人教員の採用や教員の増員が今後の課題である。	小出秀文委員	今後の課題として分析していく。	特になし
4 (1)	1	学位授与方針は学部、研究科はあるが、大学全体の方針がない。	石川弘道委員	基準協会（ハンドブック）によれば、大学としての方針は求めている、とのこと。	特になし
4 (1)	2	学部レベルでの学位授与方針が確認できない。	石川弘道委員	全学教務委員会にて平成29年度に向けて検討予定。	特になし
4 (1)	3	大学としての教育課程の編成方針が示されていない。	石川弘道委員	基準協会（ハンドブック）によれば、大学としての方針は求めている、とのこと。	特になし
4 (1)	4	薬学部・薬学研究科は根拠資料として検証結果を示す資料が提示されているが、他学部・他研究科は根拠資料が明示されていない。	石川弘道委員	学部教授会並びに研究科委員会にて検証・変更しているため、平成26年度議事録を根拠資料として提出する。	平成26年度学部教授会、研究会委員会要項・議事録等
4 (1)	5	報告書の点検・評価と発展方策における記述事項の数が一致しない。	石川弘道委員	修正済み（書き足しまたは削除）	特になし
4 (1)	6	効果が上がっている事項の中には、特に現状を記述しているだけのものが散見される。	石川弘道委員	修正済み（書き足しまたは削除）	特になし
4 (1)	7	薬学研究科ハンドブックに教育目標に関する記述が見当たらない。	石川弘道委員	平成27年度薬学研究科ハンドブックには該当する記述はなく、別紙資料として提出している。対応済みであるが、改めて石川氏には説明を行う予定。	特になし
4 (2)	1	カリキュラムマップ、科目ナンバリングが試行段階ということであれば、対応策を期待したい。	石川弘道委員	カリキュラムマップの見直しを全学教務委員会にてお願いしており、平成29年度に活用を意識したものができるよう、対応している。	特になし
4 (2)	2	健康栄養学科の卒業単位数と管理栄養士として必要な単位数の違いの表現について、問題があるとしたのか、わかりづらい表現となっている。	石川弘道委員	問題はなく、表現を改めた。	特になし
4 (2)	3	主要開講科目の理解度と入学前教育や低学力者への対応の成果との関係性の点検・評価がない	石川弘道委員	今後の課題として分析していく。	特になし
4 (2)	4	子ども教育学科のCAP上限の和が卒業要件単位数の2.08倍となっており、大きすぎる。カリキュラムを見直すべき。	石川弘道委員	卒業要件と資格取得が複雑に絡んでおり、切り分けができないことからCAP上限が膨らんでいる。検討したい。	特になし
4 (2)	5	履修ガイドに記載された単位の概念について、誤解を招く表現がある。大学設置基準第21条の規定によれば、45時間の自修及び授業をもって1単位とするため、再度確認をお願いしたい。	高田邦昭委員	平成28年度履修ガイドより表現を修正。薬学部と人間発達学部の履修ガイドには記述がないため、平成29年度以降で対応予定。	特になし
4 (3)	1	大学全体で記述のある授業時間外の教員の学生対応制度は大いに評価できるが、学部・研究科で実態と成果に関する記述がない。	石川弘道委員	大学全体で記述しているため、学部・研究科での記述は控えている。	特になし
4 (3)	2	CAP制について、上限の和が卒業要件単位数に対し、1.5以下となっている大学が多いと認識しているが、貴学は全学科で1.5を超過している。上限単位数を見直す必要がある。	石川弘道委員	全学教務委員会にて平成29年度に向けて検討予定。	特になし

章	No	質問事項	外部評価委員	回答	根拠となる資料
4	(3)	3 編入学生、転入学生に対するCAP制の説明がない、または適用しない旨記載がある。編入学生たちにもCAP制を導入すべきである。	石川弘道委員	全学教務委員会と編入学委員会で検討したい。	特になし
4	(4)	1 再試験の実施について、担当教員の裁量で実施するか否かを決定するとあるが、大学または学部で何らかの基準を設けることが必要ではないか。担当教員の個人的判断のみによるのは不適切ではないか。	石川弘道委員	全学教務委員会にて平成29年度に向けて検討予定。	特になし
4	(4)	2 健康福祉学研究科における博士論文の審査基準について、原著論文と単行本形式の学術書が同列で示されているが、問題はないのか。	石川弘道委員	福祉分野の業績については、原著論文より単行本形式の学術書の発行での判断がよい、とのことからこの方法に落ち着いている。報告書にその旨記述する方向で検討	特になし
4	(4)	3 薬学部の学位授与数がデータと報告書内にある数字が合わない。	石川弘道委員	基礎データが正しい。報告書内の数字は平成26年度(前年度)の数字が記載されていた。修正済み。	特になし
5	1	1 大学としての入学者受入方針がない。	石川弘道委員	基準協会(ハンドブック)によれば、大学としての受け入れ方針は求めている、とのこと。	特になし
5	2	2 編入学の近年の定員割れや大学院の恒常的な定員未充足状態への対応には、本学の強みである離学率の低減、高い国家試験合格率、就職率を前面に押し出した取組が必要	小出秀文委員	今後の課題として分析していく。	特になし
6	1	1 方針について、報告書に記述はあるが、根拠資料がない。	石川弘道委員	今回外部評価委員向けの資料に提供しておらず、大学基準協会への提出資料としては準備しているため、特別記述の変更などは予定していない。石川氏へは最終報告にて提示したい。	特になし
6	2	2 報告書の点検・評価と発展方策における記述事項の数が一致しない。	石川弘道委員	修正済み(書き足しまたは削除)	特になし
7	1	1 方針があるとして記述されているが、根拠資料がない。	石川弘道委員	今回外部評価委員向けの資料に提供しておらず、大学基準協会への提出資料としては準備しているため、特別記述の変更などは予定していない。石川氏へは最終報告にて提示したい。	特になし
7	2	2 助教以上の教員には研究室が与えられ、どの表現があるが、改善すべき事項では「研究室不足による数人の共同利用」との指摘がある。合致しないので、「原則として」などの表現を加える必要があるとともに、速やかな改善が求められる。	石川弘道委員	表現を修正。	特になし
7	3	3 科学研究費補助金について、新規採択が10件、継続と分担を合わせると57件とある。全教員が160人であるので、35.6%となる。更なる努力が望まれる。(表にある数字が異なるので、確認してもらいたい)	石川弘道委員	表に記載した採択数を修正。	特になし
7	4	4 改善すべき事項と発展方策について、現状説明に出ていない内容が出ているため、修正願いたい。	石川弘道委員	現状説明に追記。	特になし
7	5	5 一部の学科で研究室が不足している理由が不明。	小出秀文委員	現状説明に追記予定。	特になし
7	6	6 教育研究用機器備品等の固定資産の管理については、「適正な経理処理策の観点」、「将来に亘る財政計画立案との関連」から改善が望まれる。これには業務分析に基づく適正な職員の配置(増員・異動)など改善策への取組が必要	小出秀文委員	今後の課題として分析・検討していく。	特になし
8	1	1 高大連携事業は系列校にとどまらず、群馬県全体を視野に入れた積極的な取組に期待したい。	小出秀文委員	今後の課題として検討していく。	特になし
8	2	2 グローバル社会の進展のなかで、特にアセアン諸国における医療系人材の養成に貢献する、留学生等の相互交流(受け入れ・派遣)を期待したい。	小出秀文委員	今後の課題として検討していく。	特になし
9	(1)	1 職員の昇給・昇給に関する規程は制定されておらず、早急に対応することが望まれる。	石川弘道委員	検討していただくよう、関係者に依頼。	特になし
9	(1)	2 SDが初任者についてのみ記述されており、SDのその他の活動内容が報告書からは読み取れない。	石川弘道委員	現状説明に追記。	特になし
9	(1)	3 事務処理の障害除去や効率化を促進するため、例えばイントラネットを活用し、規程集等の共有化を図っておくことは効果的であろう。	小出秀文委員	関係部署へ依頼し、今後の課題として検討していく。	特になし
9	(2)	1 外部資金の獲得に関する記述で、7章と異なる評価をされているので、再考された。	石川弘道委員	7章の記述と見比べ、表現を修正。	特になし
9	(2)	2 学生生徒等納付金への依存改善に努め、学校法人に対する寄附に係る優遇措置「税額控除」など、寄付金収入の確保への積極的な取組にも期待したい。	小出秀文委員	関係部署へ依頼し、今後の課題として検討していく。	特になし
9	(2)	3 人件費比率、人件費依存率ともに良好な状況にあるが、今後の財政計画においては、「年齢構成」にも十分留意が必要	小出秀文委員	関係部署へ依頼し、今後の課題として検討していく。	特になし
10	1	1 学長のリーダーシップのもとで内部質保証は有効に機能している、とされた後で、内部質保証の根本である中長期的戦略・経営ビジョンや経営計画の学内共有が不十分とあり、矛盾する。	石川弘道委員	表現を修正	特になし
10	2	2 効果が上がっている事項の中には、特に現状を記述しているだけのものが散見される。	石川弘道委員	表現を修正	特になし